

不定詞について

今回は前々号、前号と続いた動詞の「非人称形」(formas no personales)の最後の1つ、不定詞を取り上げます(非人称形とは、過去分詞、動名詞、不定詞の三兄弟でした)。不定詞の機能はひとことで言って「動詞」と「名詞」のハイブリッド(híbrido)です。ところで、「不定詞」という用語は、スペイン語の“infinitivo”の訳です。この訳は定着こそしていますが、ちょっとわかりにくいですね。元々「定まっていない言葉」ということなのですが、何が定まっていないかという、通常の活用した形と違って主語や時制などが決まっていない形ということです。初心者向けの教科書には「原形」という用語を採用しているものもありますが、便宜上のことです。中級以上の学習者には「不定詞」の方が都合よいでしょう。

そもそも主語を言わない形なので無人称的表現に使われます。「一般に」とか「人々は」と考えてください。

Fumar es malo para la salud. **煙草を吸うことは健康に悪い。**

不定詞は主語や時制がない形ですから、逆に言うとその動詞自体の意味を強調するのに向いています。そこで、次のような驚きを強調した表現として使えます。

¡**Salir** del hotel a estas horas? **Ni hablar**, que es muy peligroso.
この時間にホテルから**出るって?とんでもない**、とても危険だから。

また、命令として使うこともよくあります。主語がないので具体的に誰に向けられた命令かは状況で判断されます。

Tener cuidado con los coches. 車に**注意のこと**。

《**A + 不定詞**》で命令を表すこともあります。

¡Chicos, **a trabajar!** みんな、さあ、仕事だ!

この場合は、(Vamos) a trabajar.の省略と考えてもいいかも知れませんが、Vamos a ...より命令的な響きが強く聞こえます。

不定詞の用法で最も多いのが、助動詞と組み合わせられるものではないでしょうか。本欄では初級の段階で習っている《**poder + 不定詞**》、《**querer + 不定詞**》、《**ir a + 不定詞**》、《**empezar a + 不定詞**》など基礎的なものは扱わないことにします。中級レベルの学習者が覚えておくべき表現をいくつか挙げることにしましょう。《**acabar de + 不定詞**》は、「～し終わる」という意味であることは言うまでもないのですが、否定で《**no acabar de + 不定詞**》にすると「～し終わらない」⇒「どうにも～しない」になります。

No acabo de entender lo que dice usted.

あなたの言われることが**どうもわかりません**。

次は、《**estar a punto de + 不定詞**》「ちょうど～しようとしている」です。

Nuestra empresa **estaba a punto de caer** en manos de esa multinacional mayor en el sector.

我々の会社は業界最大の多国籍企業の手**に落ちる寸前だった**。

不定詞は前置詞と組み合わせられて使われることがよくあります。まずは《**Al + 不定詞**》「～する際」です。

Al llegar a casa ella se puso a preparar la cena sin tiempo para descansar.

家に**着くと**彼女は一息入れるまもなく夕食の準備を始めた。

先ほど不定詞には主語がないといいましたが、あえて付ける場合もあります。

Al caer el sol la temperatura suele bajar de repente en esta tierra.
この土地では**太陽が沈むと**気温が急激に下がるのが常だ。

単なる前置詞だけでなく、前置詞を含んだ句で使用されます。《**en vez de**～》「～の代わりに」、《**antes de**～》「～の前に」、《**a pesar de**～》「～にもかかわらず」、《**además de**～》「～に加えて」などなど枚挙に暇がないですね。

次に《**難易・可能等 + de + 不定詞**》の構文を見てみましょう。

Al principio el inglés parece fácil, pero en realidad es muy **difícil de dominar**.

英語は最初、簡単に思えるが、実は**マスターするのがとても難しい**。

Su historia es **imposible de creer**.

彼の話は**信じることができない**。

《**疑問詞 + 不定詞**》で「～すべき」という表現が作れます。例を見てみましょう。

No sé **qué decirte**. 君に**何と**言**って**いいかわからない。

No se me ocurre **adónde ir** con ella.

彼女とどこへ**行けばいいの**か浮かばない。

No tienes **por qué preocuparte** por el examen final, si has estudiado lo suficiente.

期末試験を**恐れることはないよ**。君は十分勉強したのだから。

《**名詞 + 関係詞 + 不定詞**》の構文もよく使われます。

Déjame alguna **pluma con que escribir**.

何か**書くためのペン**を貸してくれよ。

Hoy tengo **muchas cosas que hacer**.

今日私には**すべきことがたくさんある**。

ところでこの最後の構文は《**tener que + 不定詞**》の元となったものです。

(a) Tengo muchas cosas que hacer.

↓ 私には**すべきことがたくさんある**。

(b) Tengo que hacer muchas cosas.

私は**たくさん**のことをしなければならぬ。

(a)と(b)は異なった構文ながら意味的には近いものがあります。最初は“cosas”を修飾していた“que hacer”が何らかの理由で“tengo”のすぐ後に来たとき、“tengo que hacer”という助動詞句が生まれたのでしよう。すると元々“tengo”の目的語であった“muchas cosas”が“hacer”の目的語であると誤解が生じます。これが後に固定化します。これで、なぜ《tener que + 不定詞》と《hay que + 不定詞》の構文だけ間にqueを挟むのか理解できたと思います。

最初の名詞がなく《**関係詞 + 不定詞**》だけの場合もあります。

Este fin de semana no salgo porque no tengo **con quien salir**.

今週末は出かける**人**がい**ない**ので。

不定詞は元々名詞の働きですが、完全に名詞になってしまったケースもたくさんあります(deber「～すべき」⇒「義務、宿題」、poder「～できる」⇒「力、権力」、etc.)。最後にいくつか例文を見てみましょう。

Podrás terminar los deberes de hoy en **un abrir y cerrar de ojos**.

君は今日の宿題を**瞬く間**に終えることができるだろう。

El saber no ocupa lugar. **知識**は場所を取らない。

最後の文は諺です。どんなにたくさん知識を得ても困ることはありません。ますますスペイン語道に進進ですね。¡Hasta la vista!

文 仲井 邦佳



仲井邦佳

なかいくによし/Kuniyoshi Nakai

立命館大学産業社会学部教授。

京都イスパニア学研究会会長。専門はスペイン語学。

著書に『はじめてのエスパニョール』(共著、三修社)、『中級スペイン語 一文法と演習一』(共著、同学社)などがある。